

## ランドスケープデザイン部門

—まちが美しくなるみどりづくり—

大阪府 知事賞

### 公益財団法人日本生命済生会 日本生命病院

【事業主】日本生命保険相互会社  
(公財)日本生命済生会  
【設計者】(株)大林組大阪本店一級建築士事務所  
(株)E-DESIGN  
【施工者】大林組・大成建設建設共同企業体

Address

**A** 大阪市西区江之子島2-1-154

Outline

本病院は昭和6年から続く日生病院の新病院として阿波座駅の西、木津川の傍に平成30年5月に開院した地域に根ざした総合病院である。病院西側の約1,600㎡の公開空地を“ひとと医療、まちをつなぐ地域の庭”と位置付け、多様なリハビリテーション機能が風景の中に融け込み、四季を通じ五感で自然を楽しめる空間として整備した。

本プロジェクトは、街区内の大阪府立の文化施設や集合住宅と連携してアート&ライフスタイルのコンセプトを実現するものであり、病院1階のコリドーやカフェ、ホール等が庭を介して街と繋がり、高い公共機能を有している。また、この庭と南側マンションの外溝が連続的な緑空間となり、歩いて楽しい街並みを形成している。

Review

明治時代には大阪府庁舎が建ち、近代化のフロンティアでもあった木津川河口部の江之子島。府庁ゆかりの旧大阪府立産業技術総合研究所の跡地再開発によって、「大阪府立江之子島文化芸術センター(enoco)」と民間集合住宅2棟、そして今回受賞対象となった「日本生命病院」が連携した、アート&ライフスタイルをコンセプトとする街区として再生した。「日本生命病院」では、病院の西側1,600㎡に及ぶ公開空地を活用した表情豊かな庭が、病院1階のコリドーやカフェ、ホール等と周囲のまちをつなぎ、包摂的に富んだパブリック空間の再生を実現。同街区のコンセプトを体現するうえで、ランドスケープデザインがなくてはならない重要な役割を果たしている。

隔てなくまちにつながる庭を、市民とともにある日常のリハビリ空間とし、四季折々の草木の変化に触れながら、自然にトレーニングやおしゃべりや休憩など、生活行動を促す仕掛けが埋め込まれている点は高く評価できる。また、学生や市民とともに、樹木銘板をつくり愛着を育む取り組みや、enocoや集合住宅と連携したイベントの開催、ボランティアの参加、かつての府庁舎に由来する大ケヤキを残し歴史を息づかせる配慮など、庭を介した人々の交流を育む実践の数々にも、持続的にまちを育てていく協働の意志が現れている。(大阪ガス(株) 弘本 由香里)



一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会 関西支部長賞

### Five Hills 櫛

【事業主】(株)ファイブランド  
大阪南シャーマン支店  
【設計者】積水ハウス(株)  
大阪南シャーマン支店  
【施工者】積水ハウス(株)  
大阪南シャーマン支店

Address

**B** 堺市堺区南三国ヶ丘3丁115

Review

本作品は堺市の中心、急行停車駅の堺駅にほど近い戸建て住宅を中心とする市街地の一角に位置しながら、従前の銀行の社宅跡の敷地を活かし、高さを3階に抑えた賃貸の集合住宅である。近隣のケヤキ通りを意識して、瀟洒で高級感と奥行きを感じられるファサードのランドスケープデザインとともに街にポケット的な庭を提供し、街全体のグレードアップに大きく貢献している。奥行きのある敷地を活かしてエントランスから一望できる60mの通り庭的な一本の道を中心に、色彩や大きさが連続的に変化する景石と繊細な株立ちを中心とする庭木によって庭空間がデザインされており、瀟洒で連続性のあるランドスケープが生み出されている。街の庭では近隣の高校生が談話や読書を楽しむ姿がよく見かけられるとともに、奥行き感のある通り庭の眺めは道行く人々が興味を掻き立てられるようでもある。夜の演出も大切にされ、これらの奥行き感と連続性を持った夜景も演出されている。従前の高い塀によって閉ざされていた街路景観を明るく開放的に変化させ、瀟洒で高級感と奥行き感を伴った街路景観が生み出されており、街のグレードアップに大きく貢献していることから、最優秀の一つであるCLA関西支部長賞とした。(大阪府立大学 増田 昇)



一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会 関西支部長賞

### 関西電力病院

【事業主】関西電力(株)  
【設計者】(株)日建設計  
【施工者】(株)大林組

Address

**C** 大阪市福島区福島2-1-7

Review

大阪市中心部、中之島界隈に潤いと賑わいをもたらしてきた堂島川のほとりに、建物と融合した新たな緑の風景が加わり、従来の水と緑の軸に立体的な広がりをもたらしている。川沿いの緑地とのつながりを意識し、建物の随所に重層的に配された緑は、敷地内外を一體的に捉えるランドスケープのまなざしの産物である。同様のまなざしは、このような全体構造のみならず、敷地内の個々の場所のデザインにも巧みに反映されている。特に3階の屋上庭園は、眼前に圧倒的な存在感と共に広がる堂島川の風景を主役に据え、深いまでに無駄を排したデザインで構築されている。庭園の植栽や構造物は、この主景の享受を決して邪魔することなく、人々に光や風や水音を味わいながらゆっくりと逍遙・滞留する行動を促し、むしろこの場所固有の風景体験をより豊かにする相乗効果を生んでいる。さらに特筆すべきは、広がりのある視座と細部へのこだわりが同居している点である。玄関脇やポケットパークのアイストプ等敷地内の要所には、いずれも株立ちの、軽やかで独特の存在感を放つ樹木が選ばれている。花壇も緻密な計算のもと、丁寧な管理と相俟って、非常に美しい姿を呈している。そして、そのいずれもがさりげなく、この場に集う人々を包み込んでいる。土地と自然、そして人に対する静かな優しさで満ちた、優れたランドスケープデザインである。(奈良県立大学 井原 縁)



審査委員長 特別賞

### FOREST SATAKEDAI

【事業主】梅本 憲史  
【設計者】積水ハウス(株)  
大阪北シャーマン支店  
【施工者】積水ハウス(株)  
大阪北シャーマン支店

Address

**D** 吹田市佐竹台3丁目3

Review

本作品は阪急南千里駅にほど近い閑静な戸建て住宅地の一角に位置し、緑豊かな佐竹公園に面している。約1,400㎡の屋敷跡に6棟の2階建ての戸建て賃貸住宅が、既存の屋敷林や高低差約2.5mの石積みを継承して、巧みに配されている。エントランスはすべてオープンな造りとなっており、公園の緑を取り込みながら、既存の屋敷林と新規に植栽された樹木が調和され、開放的で一体的な豊かな自然景を形成している。千里ニュータウンは建設後50年以上が経過し更新時期を迎えているが、本作品のように形成されてきた貴重な景観資源を継承し、次の時代へと繋げていくことが意図されており、ニュータウン再生の格好の事例として審査委員長特別賞とした。(大阪府立大学 増田 昇)



## ランドスケープマネジメント部門

—まちが笑顔になるみどりづくり—

大阪府 知事賞

### アドプト・ロード・万博北

【活動者】アドプト・ロード・万博北

Address

**A** 吹田市千里万博公園地内ほか

Outline

平成17年に大阪府とアドプト協定を締結し、現在雨天時以外のほぼ毎日、府道茨木摂津線の植樹帯の管理、除草・清掃等を行っている。

ポイ捨てごみや不法投棄の多い分離帯等の植樹帯に宿根草や球根、こぼれ種で毎年咲く1年草等を活用し、花を咲かせて美化を行い、ごみ捨て抑制に努めている。当該道路は万博記念公園の外周にあたることから、府道の街路樹のみならず公園からの落ち葉も降り注ぎ、相当の量となるが、当団体にて側溝も含む清掃を行い、出てきた落ち葉を可燃ごみとして処理するのではなく、植栽地のマルチングや土壌改良材として活用している。また、道路植樹帯以外府有地や児童遊園の除草・清掃、花壇づくりもしている。

Review

私たちが毎日歩く道路。沿道や中央分離帯に美しい緑が生きていきと息づいていると、日々の暮らしも楽しく潤いあるものとなる。一方で、ごみが無造作に投げ捨てられていたり、地面が荒れていると、心も落ち着かない。

美しく潤いある道路を住民の手で!という思いから、2005年に4名のメンバーが万博記念公園の外周道路(府道茨木摂津線)の清掃活動をはじめた。やがて仲間も増え、大阪府とアドプトロード協定を結び、現在はほぼ毎日、平均年齢約70歳の男女が22名、植樹帯に汗を流して活動されている。清掃で集めた落ち葉はごみとして捨てるのではなくマルチングや土壌改良材として活用するなど工夫し、宿根草や球根、こぼれ種によって花を咲かせて彩ることによって美しくなった分離帯には、ごみを捨てる人も減ってきた。またマツバギクの再生に成功するなど、種の多様性にも貢献している。活動の幅は道路植樹帯のほかにも府有地や児童遊園の除草・清掃、花壇づくりにもひろがり、また大阪大学医学部附属病院にもボランティア登録し、ホスピタルガーデンにも多くの種類の花を咲かせている。

長年にわたる地道で着実な活動は知事賞にふさわしい活動であり、今後も大阪の道路を彩ってくださることであろう。(京都造形芸術大学 仲 隆裕)



一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会 関西支部長賞

### ばら庭園の 品質向上と活性化

【活動者】浜寺公園指定管理  
グループ

Address

**C** 堺市西区浜寺公園町  
浜寺公園内

Review

種類が豊富で手入れの行き届いたバラ園として評価が高い「浜寺公園ばら庭園」は、面積約2.7haの敷地に約300種6,500本が栽培される府内最大規模のバラ園である。

その取り組みはバラを美しく咲かせるだけではなく、利用者が安心してバラの花に触れ、香りを楽しむようにと、物理的、科学的、生物学的な様々な手法を用いて、薬剤使用を制限しながら病害虫が防除されている。また絶滅危惧種となっている日本の野生種を管理者の許可を得て採取し、園内で育成栽培して種の保存にも取り組んでいる。「ばら庭園案内倶楽部」というボランティア組織を作り、運営をサポートするボランティアを積極的に養成、バラ文化や育成技術の普及に貢献している。

指定管理者制度での厳しいコスト管理が要求される中、長年にわたり熱心にたゆまぬ努力を続けるそれらの取り組みは、模範とすべきものであり高く評価できる。

台風による大きな被害を受け、現地審査時(平成30年9月)は閉園となっていたことが大変残念である。1日も早い復旧を祈念している。(株)庭樹園 當内 匡)



公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会 会長賞

### 北加賀屋みんなのうえん

【活動者】NPO法人 Co.to.hana

Address

**B** 大阪市住之江区北加賀屋5-2-29

Review

人口減少社会への転換とともに都市が縮退の局面を迎えている。その際、外縁部から徐々に都市域が縮小せず、市街地内部に穴あき状に空地等が多く発生する「都市のスポンジ化現象」が指摘され、その対応が求められている。しかし開発等による収益が見込めない土地での空地活用の方法や管理の仕組が確立されておらず、そのスキームの構築は社会的な課題となっている。

本事例は、農園運営のためのチームでの役割分担や課題解決に向けた会議の実施など文字通り「みんな」で緑地空間を育てる仕組みを有し、また隣接スペースでの収穫物を活用したイベントの開催など地域に広がるコミュニティの核ともなっている。こうした空地活用の新たな形の提示、都市における農を介したコミュニティ創造の場の提供といった点で、本賞の趣旨である「都市における緑と人間との新たな共生の形」を示す高く評価できる事例だと感じた。

さらに農園では水稲栽培に挑戦する利用者もいるなど各区画に個人の楽しみが感じられ、またデザイン性の高い倉庫や看板なども相まって、多くの人に魅力的に映る、他地域でも真似をしたいと思わせる発信機能の高さも評価できるポイントだと感じた。(大阪大学大学院 松本 邦彦)



審査委員長 特別賞

### えびえにし防災広場

【活動者】えびえにし防災広場  
管理運営会

Address

**D** 大阪市福島区海老江  
8丁目13

Review

2018年もまた、大型台風が襲来するなど、自然災害が数多く発生した。いざというとき、命を守るには地域住民のネットワークと事前の備えが欠かせない。

この広場は密集住宅市街地にあり、津波や火災などの災害を想定し、地域住民が計画段階から深くかかわり、完成後も地域住民が維持管理・運営に努めている防災公園である。地上部がステージとなっている雨水貯水槽、防災トイレ、かまどベンチ、ソーラー照明、情報周知設備などといった防災資機材を備えているが、この広場のユニークな点は隣接する保育園と一体となって花づくりや野菜の栽培、焼き芋といった緑を楽しむ活動が行われている点である。また、福島区にゆかりのあるノダフジの藤棚は、雨天時にシェードとなるものであるが、市内の藤めぐりの名所にもなっており、より広域のネットワークの拠点ともなりつつある。

定期的に行われる防災訓練では手漕ぎポンプを用いるなど、楽しみながら安全安心のコミュニティ活動に取り組んでいることは、今後の他地域における取組みの参考になると思われることから、このたび審査委員長特別賞とする。(京都造形芸術大学 仲 隆裕)

